令和８年度広報常任委員会
町村議会広報研修会報告

期日：　令和８年８月28日（金）
午後１時～午後３時20分

開催地：　LINE CUBE SHIBUYA（東京都渋谷区）

出席者：　広報常任委員会委員６名

講師：　自治体・議会広報アドバイザー
村田　大地　氏

エディラボ　インタビューライター
丘村　奈央子　氏

国見町議会

ページ

蒲倉　孝 委員長・・・・・・1

小林　聖治 副委員長・・・・3

渡邉　勝弘 委員・・・・・・4

山崎　健吉 委員・・・・・・5

八巻 喜治郎 委員・・・・・ 6

斎藤　樹 委員・・・・・・・7

令和８年度　全国町村議会広報研修会

報　告　書

令和８年９月15日

国見町議会議長　山崎健吉　様

国見町議会議員　蒲倉　孝

【日時】

令和８年８月28日(金)

【場所】

1．東京都　LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）

【報告】

1．「住民と議会をつなぐ広報デザイン術」

～王寺町議会広報のリニューアル　その狙いと効果～

「講師」；　自治体・議会広報アドバイザー　村田（むらた）　大地（だいち）　氏

(1) 広報が変わるとどうなるのか

・ 現実　…　自分が好きな雑誌でさえ、パッと読みたい記事を選んでいる

⇒　届かない広報は税金と時間の無駄

・ コンセプトの見直し

…　印刷以外手作り／人を全面に出す紙面／手に取りたくなる雑誌感

⇒　編集ソフト導入／デザイン・レイアウト／ユニバーサルデザイン

（過去）　読み手のハードルが高い紙面

（現在）　あなたと議会をつなぐガイドブック

(2) 紙面の要素を洗い出す

・ 自分が必要な情報か判断する時間　…　0．3秒

・ 編集方針を設定　（抜粋）

① 脱　報告書

I.　すべての審議結果を均等に掲載しない

II.　関心が高い案件に優先順位・メリハリ

III. 行政用語や議会用語は言い換えや解説を

IV. 議員の人柄がわかるようにコメント掲載

② 読みやすいレイアウト

I.　議会を身近に感じてもらう巻頭企画

II.　余白を生み出し、ユニバーサルデザインへ

③ 文字を少なく写真を多く

I.　情報量が多い案件は町公式サイトへ誘導

II.　見出しは大きく簡潔に

III. 文章はスリム化を図る

IV. 読み手を第一に考える

V.　簡潔でやわらかい表現にして文体を統一

(3) 紙面の要素を洗い出す

・ 文字、素材、余白のバランスを整える　⇒　図版率を50%におさめる

- 図版率とは、印刷物のページ全体に占める図版（画像やイラスト、写真など）の割合を示す指標です。

・ 個性をはなつイラストのトンマナをあわせる

- 「トンマナ」とは、「トーン＆マナー（tone&manner）」の略語で、デザインやスタイルに一貫性を持たせるルールのことです。

・ 文章だけにならないように整える

・ 表は濃淡でメリハリをつけ、視認性をアップ
・ 見出しのジャンプ率で視線誘導
  - 人間の視線は本能的に「大きいもの」「目立つもの」から順に動きます。ジャンプ率とは、デザイン内で最も大きい要素と最も小さい要素のサイズ比率のことを指します。
    ジャンプ率を適切に設計することで、閲覧者の視線を意図した順序で誘導でき、情報の優先順位を明確に伝えられます。

(4) ユニバーサルデザインのススメ
・ 行間が狭いと読みにくい ⇒ 適正に修正
・ 一行が長すぎると読みづらい ⇒ 30 字を超えたらレイアウト調整
・ 難しい固い言葉を翻訳する ⇒ 中学生でも分かり易く
・ ユニバーサルデザインフォント ⇒ 「くにみ議会だより」 は導入済みです
  - UD フォントは、年齢や障害の有無に関係なく誰でも読みやすく、誤読しにくいよう設計されたフォントです。

(5) デザイン 4 原則＋α
・ 端をそろえると読みやすくなる ⇒ 見えない線でそろえる
・ 見出しを大きく、本文は小さく、余白をとる
・ 色は「基本」3 色 ⇒ 赤色系／黄色系／青系
  - 2 色でも、濃い薄いでメリハリを付けられる

2.「議会広報紙のビフォーアフター」
～紙面を見直す、効果的なテクニック～

「講師」； エディラボ インタビューライター 丘村（おかむら） 奈央子（なおこ） 氏

(1) 紙面をより良くするためのセオリー
① 手に取りたい 「デザイン」 ⇒ 一目で構造がわかるか
② 読んでもらえる 「見出し」 ⇒ 一目で内容が分かるか
③ 分かりやすい 「情 報」 ⇒ 情報量が適切か

(2) 事例 「3 町議会」議会だよりを見直し
① 愛知県大治町議会『おおはる 議会だより』
② 秋田県八郎潟町議会『はちろうがた 議会だより』
③ 高知県仁淀川町議会『仁淀川町議会だより』

(3) 紙面を見直すテクニックを知ろう ⇒ いかに興味を持って、手に取ってもらうか
・ デザイン … 構造が分かるように、区切りを作る
・ 見出し … 内容がわかるように、太字で大きく
・ 情報 … 情報量をコントロール／端的に表現

【所感】
・ 今年も、上記の通りクリニックを受講いたしました。5 年前から、くにみ議会だよりにも導入しました「ユニバーサルデザインフォント」の効果や、一般質問のレイアウト統一化など、必要な事と実感しました。
・ 今回学んだアイディア等を、9 月議会号から取り入れて行きたいと考えております。
・ 今後も、定期的に研修会へ参加し、手に取っていただける「くにみ 議会だより」をお届けいたします。

以上

令和８年度全国町村議会広報研修会　報告書

令和８年９月２８日（月）

国見町議会議長　　山　崎　健　吉　様

国見町議会議員　　小林　聖治

日　　時　　令和８年８月２８日(金)　午後 1 時 00 分～3 時 20 分

場　　所　　ＬＩＮＥ　ＣＵＢＥ　ＳＨＩＢＵＹＡ（東京都渋谷区）

調査事項　　①「住民と議会をつなぐ広報デザイン術」
自治体･議会広報アドバイザー　村田　大地　氏
②「議会広報紙のビフォーアフター」
エディラボ　インタビューライター　丘村奈央子　氏

調査内容

① 奈良県王寺町議会の議会広報誌を参考に、コンセプトの見直し、文字や素材、余白のバランスなど講演を通じて研修した。

② 議会報づくりについて、その企画、編集のノウハウを、３つの自治体の議会広報紙を参考材料にして研修した。

感　　想

① 近年、新しい広報媒体のＬＩＮＥやインスタグラム、ＴｉｋＴｏｋなどの活用が、特に若者の間で有効になっている。
広報手法についても、紙がベースではあるが、町民参加型のスタイルが重要であることを感じさせられた。

② 今回、様々な自治体の議会報を、参考に講師から説明・指摘を受けましたが、とくに読み手とつながる「３つのステップ」デザイン→見出し→情報が重要であり、文字をぎゅうぎゅう詰めるのではなく「余白をつくる」、「メリハリをつくる」ことによる「見やすさ」が大切なことを学んだ今回の研修でありました。

以上、報告を終わります。

令和　８年　　９月　　１日

町村議会広報研修会報告書

国見町議会議長　山崎健吉　様

報告者氏名　　渡邉　勝弘

【調査内容】

議会広報を作成する上で、現状とその課題について把握しなければならない。
広報発刊がゴールとなり、本当に伝えなくてはならないことが疎かになることがある。また、専門用語を多用する事により読み手の意欲を損なってしまうことになる。手にとってもらえなかった以前の広報誌を検証することにより問題点がわかることもある。そこからコンセプトの見直しを行い、印刷以外の手作り、住民の写真を多く取り入れることによって、地域が舞台となり、住民が主役となることにより、手にとりたくなる雑誌感が生まれ、住民が待ち遠しい広報誌を完成させることができる。

【感想・所感など】

以前の広報誌は、住民に手に取って読んでもらいたいという思いから、情報をいち早くお知らせすることに執着して、専門用語の多様化が自然と多くなり、住民の目線で作っていないのではないか、そのために、町の広報誌と議会広報誌の区別がつかない位に特徴がなくなり、手に取って読んでもらっていない現状だった。今回の研修により、以前の広報誌とは違いが出てきていることがわかった研修会でした。今後ともこの状態を保ち、更なる躍進をしなくてはなりません。

以　上

令和８年８月29日

広報常任委員会研修報告書

国見町議会議長　山崎　健吉　様

報告者　山崎　健吉

【日　　時】　令和８年８月28日　13時から
【場　　所】　東京都　渋谷公会堂(LINE　CUBE　SHIBUYA)
【主　　催】　全国町村議長会広報研修会
【研修内容】　「読んでもらう議会だより」の作り方について
●自治体・議会広報アドバイザーの村田　大地氏による「住民と議会をつなぐ広報デザイン術」についての指導があった。
先生は、広報デザイン術は、町民の目を引くには、オシャレな表紙に、読みやすい内容で編集することが必要で、編集委員は、大英断で行うことが必要とのこと。また、色彩は、デザインの基本４原則＋αで、全てカラーにすればよいと言うことではない。年代によっても違うが、見やすい文字や色彩を使うこと。
●エディラボ　インタビューライターの丘村　奈央子による「議会広報紙のビフォーアフター紙面を見直す、効果的なテクニック」について指導があった。
田村先生とほぼ同じような、内容であったが、いかに興味を持って、手に取ってもらうか。効果的に取り組みは、①デザインについては、構造が分かるように区切りを作ること②見出しについては、内容が分かるように、太字で大きく仕上げること③情報については、情報量をコントロールし極端な表現にならないようにすることの３点に留意して欲しいとのこと。

【感想・所感など】
　今回の研修は「読んでもらう議会だより」を基本に、先生方からご指導を受けました。当町の「くにみ議会だより」も、研修の成果もあり、委員会としては、年々読みやすい議会だよりにはなったとは思っているが、町民の方が、もっと議会に関心を持たれ、読んでいただけるような誌面づくりをしていきたい。

令和８年度町村議会広報研修会に参加して

八巻喜治郎

令和８年８月 28 日に東京渋谷 LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）で開催された令和 8 年度町村議会広報研修会に広報委員として参加いたしました。

より良い広報誌を目指して日本全国から広報担当者が集まり研修を受けたのでありますが、規模の大きさには、只々、驚くばかりでした。

広報誌の作成などの説明については、今まで、広報常任委員会で活動していたので違和感はありませんでした。全国広報研修ということで、今までよりも、視野が広くなりました。今後の広報誌作成活動において、住民が議会の広報誌を愛読するような成果をあげるように「議会だより」の改善に向け、今回の研修を生かしていきたいと思います。

令和８年度　町村議会広報研修報告書

令和８年９月 13 日

国見町広報常任委員長
　蒲倉　孝　様

国見町議会議員　　斎　藤　　樹

研修日：令和８年８月 28 日（金）
会場　：ＬＩＮＥ　ＣＵＢＥ　ＳＨＩＢＵＹＡ
主催　：全国町村議会議長会

セミナー1
「住民と議会をつなぐ広報デザイン術」
講師：自治体・議会広報アドバイザー　村田　大地　氏

【研修内容】
① 広報が変わるとどうなるか
② 紙面の要素を洗い出す
③ ユニバーサルデザインのススメ
④ デザインの４原則＋α
⑤ まちの空気を編集する

【感　想】
読む人にとって満足度の高い広報紙づくりをしていけるように意識を持つことが大切と感じた。

セミナー２
「議会広報紙のビフォーアフター」
講師：インタビューライター　丘村奈央子　氏

【研修内容】
① 広報全体の戦略と伝え方
② 広報紙特集となるネタ
③ 材料を見やすくするレイアウト

【感　想】
満足度の高い広報紙にするために何が大切なのかを理解し、何を伝えたいのか、どうしたら読み手に興味を持ってもらえるのか。また、見やすい紙面づくりのコツなどを学ぶことができ有意義な研修となった。